

記者発表（発表・資料配付）				
月／日 （曜日）	担当課（室） 係名	TEL	発表者 （担当者名）	その他の発表先
7月31日 （火）	義務教育課 初等・中学校教育班	078-362-9429	西田 健次郎 （村田 かおり）	

平成 30 年度全国学力・学習状況調査（4/17）の結果について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としている。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。

(2) 本県の調査実施校数、人数（公立小学校・中学校・義務教育学校・中等教育学校・特別支援学校）

- ・小学校 6 年生：754 校 46,897 人
- ・中学校 3 年生：346 校 42,999 人

(3) 調査内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ①主として「知識」に関する問題（A） ②主として「活用」に関する問題（B）

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ①児童生徒に対する調査 ②学校に対する調査

2 本県（公立学校）の状況

(1) 教科に関する調査の状況

本県の平均正答率は、全国と比較して、いずれも±5%の範囲内にある。

〈平均正答率の状況〉 （%）

	教科等		平成 30 年度（今回）			H29 年度 （全国比較）
			本県	全国	比較	
小学校 6 年生	国語	知識 (A)	70	71	－1	±0
		活用 (B)	54	55	－1	－1
	算数	知識 (A)	63	64	－1	－1
		活用 (B)	52	52	±0	±0
	理科		59	60	－1	－1
中学校 3 年生	国語	知識 (A)	77	76	＋1	＋1
		活用 (B)	61	61	±0	±0
	数学	知識 (A)	69	66	＋3	＋3
		活用 (B)	48	47	＋1	＋2
	理科		67	66	＋1	±0

※本県の結果については、公立大学法人である兵庫県立大学附属中学校を除く。

※理科については、3 年に 1 度の実施のため、前回実施（H27 年度）との比較。

(2) 特 徴

() 内は各問題の平均正答率 (%)

①小学校

ア 国 語

- 相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すことはできている。【A 1】(県：90.8)
- 目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題がある。【B 2 二】(県：11.1)

イ 算 数

- 「混み具合」を比べる場合、単位面積当たりの人数か、単位人数当たりの面積を、単位量として設定することはできている。【A 4 (1)】(県：89.6)
- メモの情報と棒グラフを組み合わせたグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述することに課題がある。【B 3 (1)】(県：21.4)

ウ 理 科

- より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法の実験結果分析して、考察することは、できている。【4 (2)】(県：89.2)
- より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することに課題が見られる。【2 (3)】(県：18.9)

②中学校

ア 国 語

- 話の論理的な構成や展開などに注意して聞いたり、必要に応じて質問したりすることはできている。【A 1 一】(県：87.9)
- 目的に応じて文章を読む際などに、情報を整理して内容を的確に捉えて書くことに課題がある。【B 1 三】(県：14.3)

イ 数 学

- 球が回転体としてどのように構成されているかの理解、見取図、投影図から空間図形を読み取ることができている。【A 5 (2)】(県：84.4)
- 数学的な結果を事象に即して解釈することを通して、成り立つ事柄を判断し、その理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。【B 5 (2)】(県：10.7)

ウ 理 科

- 習得した知識・技能を活用して、観察・実験の結果を分析して解釈することはできている。【6 (3)】(県：91.6)
- 自然の事物・現象に含まれる要因を抽出して整理し、条件を制御して実験を計画することに課題がある。【9 (2)】(県：18.1)

3 今後の対応

(1) 調査結果の分析や授業改善に向けた取組

- ・ 課題の見られる設問について、各市町の調査結果の状況を踏まえて、詳細な分析を行い、段階ごとの課題の解消に向けた重点的なポイントを示す改善資料の作成等、学力向上に向けた取組を実施
- ・ 課題の改善に向け、児童生徒の底上げ「ひょうごつまずきポイント指導事例集」を活用した地区別研修を継続実施
- ・ 「ひょうごつまずきポイント指導事例集」活用研修の継続により市町の授業改善を支援及び効果的な活用方法の周知
- ・ 知識技能の定着を図るため「学習タイム」を全県継続実施
- ・ 放課後に補充学習に取り組む「ひょうごがんばりタイム」を拡充

(2) 調査結果の分析と改善に向けた取組等の周知

- ・ 学力向上実践推進委員会において、全県的な成果や課題を詳細に分析し、課題に対する指導方法の工夫改善の方策を示す「学力向上シンポジウム」を開催
(学力向上シンポジウムの開催：平成30年12月5日(水)、神戸文化ホール)
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」授業改善促進事業における指導改善の効果的な取組等を周知

4 児童生徒の学習や生活に関する意識の状況及び学校の指導の状況（抜粋）

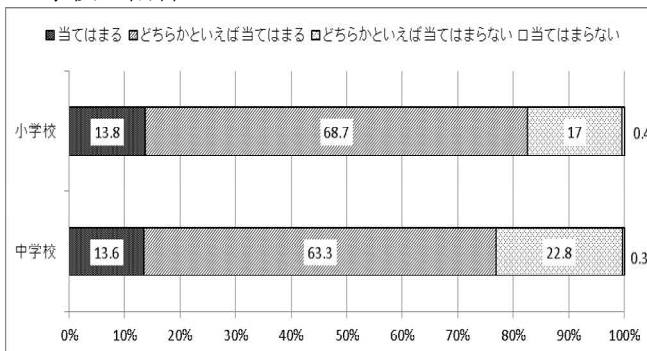
(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

○授業では、児童生徒が課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組むことができていると考える小中学校の割合は約8割、児童生徒の割合は約7割ある。（図ア・イ）

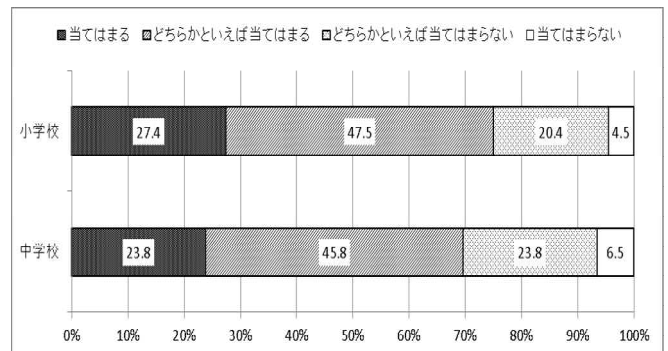
○習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしている小中学校の割合は、平成28年度以降、増加傾向が見られ、平成30年度は9割を超えている。（図ウ）

○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う児童生徒の割合は、平成29年度と比べて増加しており、平成30年度は7割を超えている。（図エ）

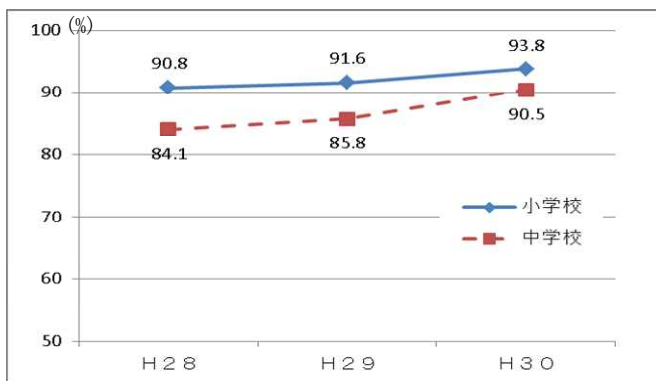
ア 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると回答した学校の割合



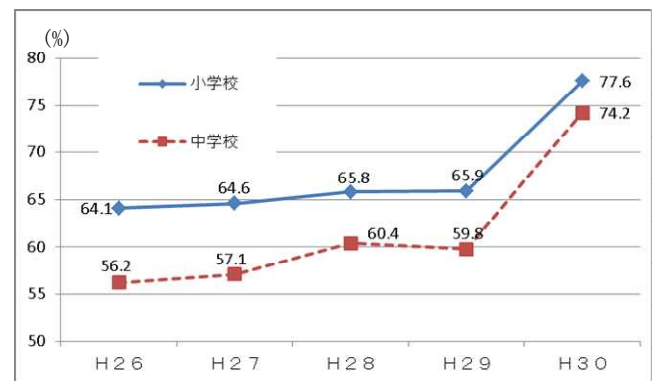
イ 前の学年までに受けた授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思う児童生徒の割合



ウ 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行っている学校の割合



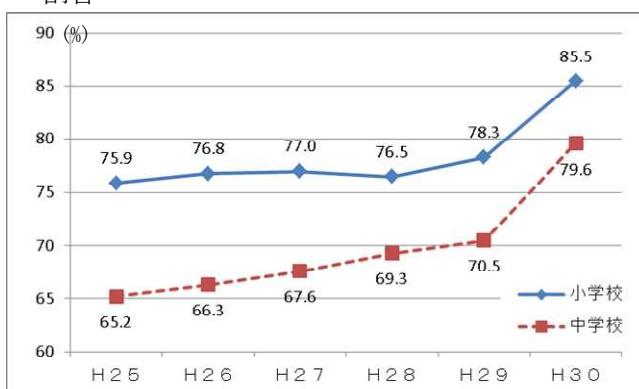
エ 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできていると思う児童生徒の割合



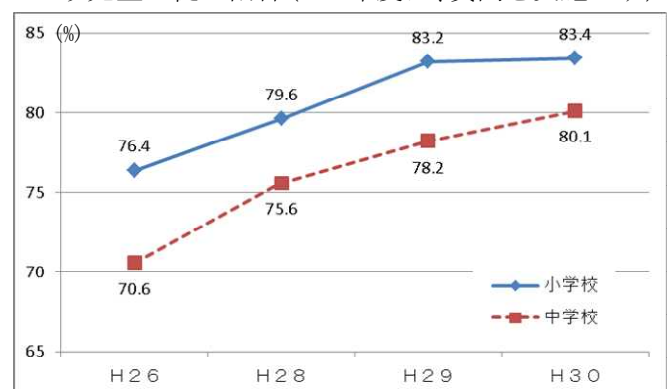
(2) 児童生徒の自己肯定感に関する状況

○「自分には、よいところがある」「先生は、よいところを認めてくれている」など自己肯定感に関する内容は、増加傾向が継続しており、平成30年度は小中学校とも約8割となった。（図ア・イ）

ア 自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合



イ 先生は、よいところを認めてくれていると思う児童生徒の割合 (H27年度は、質問を実施せず)



(3) 学校運営及び地域や社会と学校の連携・協働に関する状況

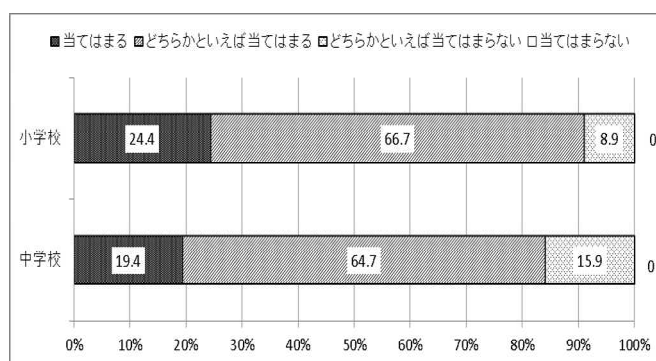
○教育課程の趣旨について、家庭や地域と共有を図る取組を行っている学校の割合は、小学校で9割、中学校で8割を超えている。(図ア)

○前年度までに授業や課外活動で、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行っている学校の割合は、小学校がやや減少したものの8割、中学校は増加し7割を越えた。(図イ)

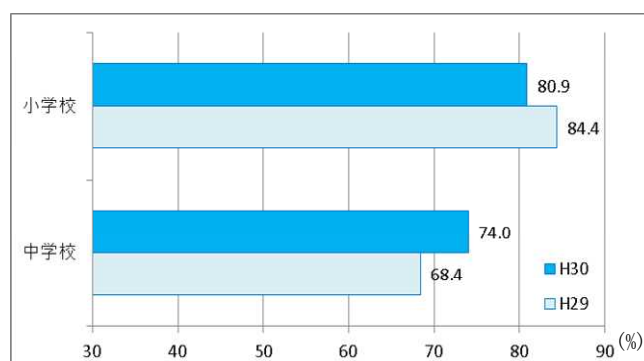
○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合は、平成25年度以降、増加傾向が見られる。(図ウ)

○地域社会などで、ボランティア活動に参加した児童生徒の割合は小学校では3割、中学校では4割となっている。(図エ)

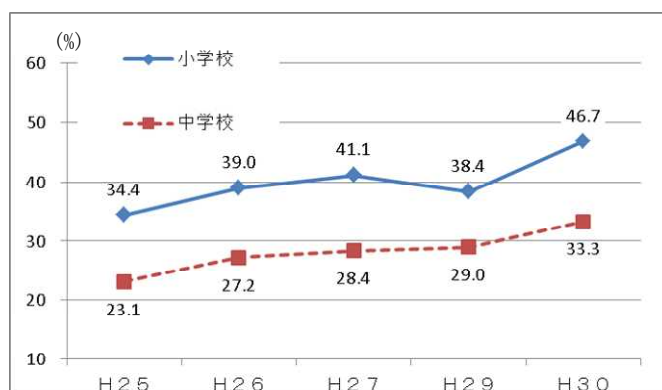
ア 教育課程の趣旨について、家庭や地域と共有を図る取組を行っている学校の割合



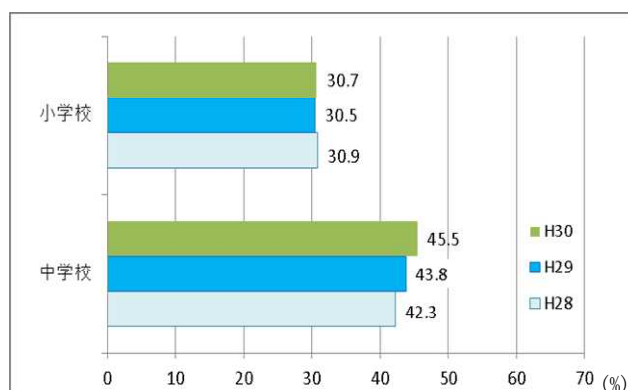
イ 前年度までに授業や課外活動で、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行っている学校の割合



ウ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合
(H28年度は、質問を実施せず)



エ 地域社会などでボランティア活動に参加したことがある児童生徒の割合



※グラフ中の数値は、いずれも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」など肯定的な回答の合計

